

え び す えいぞうさい
恵比寿映像祭2023

やさしい

に ほん ごと
日本語による

ガイド

やさしい日本語で書いた人：徳本 宏子（東京都写真美術館）

恵比寿 映像祭 とは？

恵比寿 映像祭は、2009年から 始まった 映像と アート(芸術)の 国際的な フェスティバルです。

短くして えびぞう(YEBIZO)とも いいます。

映像や メディアの 表現を どうやって 育てて、 続けていくかを みんなで 考えます。

世界の 変化とともに、映像も 大きく 変わって きました。そのなかで、「映像とは 何か」を 考えて、 いろいろな 新しい 挑戦を しています。

今年のテーマ 「テクノロジー？」

テクノロジー(英語で: Technology)は、日本語で「技術」と 訳します。しかし、ここでは その「テクノロジー」という 言葉の 意味を 自分で 新しく 考えながら 作品を 見てみましょう。

写真、映画、アニメーション。映像の 作品の テクノロジーは、19世紀以降、大きく 発展して、今では より きれいで データ量の 多い イメージ(画像・映像)や、長い 時間の 映像をつくることのできるようになりました。

技術は、たくさんの 人が 使うことで 広がります。

いま、わたしたちが 見ている 映像が、100年後の 人たちに どのような ものとして 見えるのかは、誰にも わかりません。

アーティストの 表現から、思いもよらない 発見を することが あります。さまざまな 映像表現から、アートと 技術で できることを 考えます。

コミッション・プロジェクト

日本^{にほん}で活動^{かつどう}する、アーティストたちに、新しい^{あたら}映像^{えいぞう}の作品^{さくひん}を作る^{つく}ことをお願い^{ねが}しました。アーティストによって表現^{ひょうげん}も、作品^{さくひん}を作る^{つく}理由^{りゆう}もちがいます。新しい^{あたら}作品^{さくひん}を通じて、映像^{えいぞう}作品^{さくひん}にできる^{できる}ことを考え^{かんが}ます。

20世紀^{せい}の作品^{さくひん}から最近^{さいきん}注目^{ちゅうもく}されているアーティストの作品^{さくひん}まで展示^{てんじ}をしています。アートと技術^{ぎじゆつ}の関係^{かんけい}を、体^{からだ}や機械^{きかい}、人工^{じんこう}などの見方^{みかた}から考え^{かんが}ます。

新型^{しんがた}コロナウイルスが流行^{りゅうこう}して、テレワークやオンラインでの会話^{かいわ}がふつうになりました。人工^{じんこう}知能^{ちのう}、メタバース(インターネット上の^{じょう}仮想空間^{かそうくうかん})など、新しい^{あたら}技術^{ぎじゆつ}が広がり^{ひろ}ました。それらは、人々^{ひとびと}の体^{からだ}の感^{かん}覚^{かく}を変^かえました。

しかし、写真^{しゃしん}や映像^{えいぞう}はもともとカメラなどの機械^{きかい}をつかってつくっています。近代^{きんだい}以降^{いこう}すべての映像^{えいぞう}表現^{ひょうげん}には、テクノロジーが必要^{ひつよう}でした。

都市^{とし}や自然^{しぜん}を表現^{ひょうげん}するアーティストの作品^{さくひん}や、その表現^{ひょうげん}に必要な^{ひつよう}だったテクノロジーを歴史的^{れきしてき}に考え^{かんが}ます。

都市^{とし}には、歴史^{れきし}や人^{ひと}の記憶^{きおく}、環境^{かんきやう}の变化^{へんか}など、いろいろなできごとがあります。

この階^{かい}で展示^{てんじ}している写真^{しゃしん}や映像^{えいぞう}には、アーティストたちがいいな、すてきだなと思^{おも}った、都市^{とし}のいろいろなできごとが表現^{ひょうげん}されています。

ほか その他のおすすめ

じょうえい 上映

いろいろな 映像作品を 毎日 上映します。映画、ドキュメンタリー、アニメーション、現代美術があります。上映の後には、監督やゲストのおはなしもあります。くわしいことは、ウェブサイトを 見てください。

今年は、テクノロジーと人間の関係を考える作品を選びました。

きょういく ふ きゅう 教育普及プログラム

2月 5・11・18日には、美術館の1階スタジオでアニメーションのワークショップがあります。アニメーションのしくみを学び、簡単に作品を作ることができます。その他、恵比寿映像祭 YouTubeチャンネルで動画を 見ることができます。

オフサイト (off-site) てんじ 展示

美術館の外にも作品があります。恵比寿ガーデンプレイスのセンター広場には、東京2020 オリンピック・パラリンピックで つかった、「市松模様」という名前の模様を元にした作品があります。

えびぞう みーつ ちいきれんけい YEBIZO MEETS 地域連携 プログラム

美術館のまわりにあるギャラリー、文化施設などの会場で、いろいろな 展示会や イベントがあります。会場をまわってシールを集めると、プレゼント(トートバック)がもらえます。街を歩くことで、街の良いところを知ることができるでしょう。